

[プロジェクト名]	[分野]
廃校で行う、子ども宿泊体験プロジェクト ～in 初原ぼっちの学校～	教育・研究 ボランティア 課外活動
[代表者]	地域交流
教育学部・学校教育教員養成課程・数学選修・3年 須貸 マナ	
[参加者]	
<p>戸田 賢吾（教育学部・学校教育教員養成課程・技術選修・4年） 大島 宏美（教育学部・学校教育教員養成課程・数学選修・3年） 川俣 啓（教育学部・学校教育教員養成課程・数学選修・3年） 須貸 マナ（教育学部・学校教育教員養成課程・数学選修・3年） 山口 仁志（教育学部・学校教育教員養成課程・数学選修・3年） 郷間 裕之（教育学部・学校教育教員養成課程・技術選修・3年） 中村 瞳（教育学部・学校教育教員養成課程・養護学校コース・3年） 青木 治毅（教育学部・学校教育教員養成課程・数学選修・2年） 高橋 利哉（教育学部・学校教育教員養成課程・数学選修・2年） 廣瀬 春奈（教育学部・学校教育教員養成課程・数学選修・2年） 平井 彰子（教育学部・学校教育教員養成課程・数学選修・2年） 内山 俊太（教育学部・学校教育教員養成課程・英語選修・2年） 萩原 智恵理（教育学部・養護教諭養成課程・2年） 大曾根 和也（教育学部・学校教育教員養成課程・数学選修・1年） 小林 真奈美（教育学部・学校教育教員養成課程・数学選修・1年） 小松 彩恵（教育学部・学校教育教員養成課程・数学選修・1年） 佐瀬 光祐（教育学部・学校教育教員養成課程・数学選修・1年） 佐藤 匡史（教育学部・学校教育教員養成課程・数学選修・1年） 篠塚 友美（教育学部・学校教育教員養成課程・数学選修・1年） 古木 香里（教育学部・学校教育教員養成課程・数学選修・1年） 村上 慶一（教育学部・学校教育教員養成課程・数学選修・1年） 横島 あかね（教育学部・学校教育教員養成課程・数学選修・1年） 渡辺 誠（教育学部・学校教育教員養成課程・数学選修・1年） 大竹 弘人（教育学部・学校教育教員養成課程・英語選修・1年） 毛塚 理恵（教育学部・学校教育教員養成課程・養護学校コース・1年） 手塚 奈桜海（教育学部・養護教諭養成課程・1年） 元越 朝香（教育学部・学校教育教員養成課程・家庭選修・1年） 安藤 康平（人文学部・社会科学科・1年） 高橋 遼（人文学部・社会科学科・1年） 関 奈那子（人文学部・社会科学科・1年） 嶋崎 惇子（人文学部・人文コミュニケーション学科・1年） 槌谷 祐未（人文学部・人文コミュニケーション学科・1年）</p>	
[連携先]	
水戸市教育委員会、大子町教育委員会、大子町役場、大子で活動している NPO 団体	
[プロジェクトの実施計画概要]	
<p>【プロジェクト発足までの経緯】 昨年度、学生の「子どもを集めてキャンプがしたい!」という思いから、チームが発足し、知り合いの大子町初原地区の方々と打ち合わせをしながら、計画をたてていきました。そして、実際に水戸市と大子町の子どもを集め、大子町初原にある初原ぼっちの学校（旧初原小学校・H7年3月にて閉校）にて、2泊3日の宿泊体験を行いました。 その際に、計画がたつまでに支援してくれた学校の方や地域の方、役場の方と関わっていくうちにその方たちに感謝を感じると共に、その地域と人々が好きになっていきました。</p>	

そして、学生からの「子どもたちにまた会いたい」という言葉と、「もっと役に立ちたい」という思いから、今年はサークル申請をして、先生にも付いていただきました。

【連携の方法】

宿泊体験の内容の企画、運営は主に学生が行います。内容の企画の面では、現地の方と何度か打ち合わせを行い、安全面などから可能なかどうか等のアドバイスをいただき、練っていきます。当日の運営の面では、現地の方々の家を訪問したり、野菜を提供していただいたり、昔ながらの道具をお借りしたり、昔ながらのお話をしていただく等、まだ内容の検討中なのですが、なるべく現地の方々と関わっていきたいと思っています。

【期待される成果】

私たちは、キャンプを通して以下のような成果が期待できると考えています。

- ・ 大子には多くの廃校になった木造校舎があります。今は木造校舎というものを知らない子どもが多く、昔ながらの建物に触れ、そこで生活することで、その良さを感じさせたいと考えています。
- ・ 小中学生の行動範囲は狭く、自分の住んでいる地域から出ることも少ないと思います。遠く離れた、水戸の子どもと大子の子どもと一緒に活動することで、お互いの違いや良さを感じると共に、視野が広がればと考えています。
- ・ 今は昔と比べ、屋内で遊んだり、一人で遊ぶ子どもが多くなってきているように感じます。私たちは、この活動を通して、『今まで知らなかった人と3日間で友達になる』という経験をして欲しいと考えています。
- ・ 前述した色々な人と一緒に生活し、楽しい思い出をつくることによって、「様々な人たちと関わることが楽しいことなんだ」ということを感じて欲しいと考えています。

【プロジェクトの成果報告】

本プロジェクトは、大子の廃校を使って子供たちに宿泊体験をさせるというプロジェクトである。私たちの活動の拠点である茨城県大子町で平成19年8月21日(火)～23日(木)に、大子・水戸の子供たちを対象にした2泊3日のキャンプを行った。プロジェクト実施にあたり、大子の町役場の方たち、教育委員会の方たち、大子で活動するNPOの方たちとの連携は不可欠だった。会場となる廃校を提供してくれたのは町役場の人々であり、快く提供してくれた。大子の方たちは、自分たちの行うようなボランティアにとっても好感を持っており、足りない物品の調達や会場づくりの手伝いなど、学生だけではできないことにも積極的にお手伝いをしていただいた。

ねらい「ともだちづくり力の育成」について。この「ともだちづくり力」とは短い時間の中でまったく知らない人と仲良くなるための力である。キャンプ当日、水戸・大子からたくさんの参加者がやってきた。参加者38人中水戸の子どもはその約3分の1であった。子どもたちははじめ友達同士や、水戸の子・大子の子同士で話していた。しかし、学生の考えた企画が進行するにつれ、子どもたちは自然と学生・水戸の子・大子の子関係なく、たくさんの人と話そうとする姿勢が見られた。食事作りでは協力する姿勢が特によく見られた。一日目の夜に行った肝試しの企画の時には、全員が気軽に話せるぐらいに打ち解けていた。この肝試しをきっかけとして自分から話せるようになった子もいる。学生たちもまた、企画が進むにつれて協力しようとする姿勢が見られた。この3日間を通して、ねらい「ともだちづくり力の育成」は達成されたと言ってよいだろう。

今回支給された費用は、ほとんどが交通費や学校使用費にあてられている。水戸からの参加者はバス移動だったので、この支給によって、子どもたちの負担(参加費)は大きく軽減された。

このプロジェクトを実施したことにより、大子に関わる人たちや、大子という地域そのものとのつながりが強くなった。地域の人たちの助けなしではこのようなプロジェクトはできなかっただろう。今回の活動で大子の人たちとの関係を築くことができた。この連携を生かし、次回以降の活動に生かしていけたら、と考えている。